

科学者委員会（第24期・第1回）議事要旨

1 日 時 平成29年11月13日（月）15時00分～17時00分

2 場 所 日本学術会議 大会議室（2階）

3 出席者 三成美保委員長

（第一部）亀田達也委員、橋本伸也委員

（第二部）武田洋幸委員、大杉立委員、名越澄子委員

（第三部）米田雅子委員、藤井良一委員

（参考人）伊藤公雄会員

4 配布資料

資料1 科学者委員会概要資料

資料2 科学者委員会委員名簿

資料3 科学者委員会運営要綱

資料4 地区会議運営要綱

資料5 協力学術研究団体関係規程

資料6－1 地区会議運営協議会委員の構成の決定について

資料6－2 地区会議主催学術講演会の開催について

資料6－3 分科会設置提案書（案）

資料6－4 運営要綱の改正（案）（23期との比較）

5 議題

（1）科学者委員会の今後の運営について

・副委員長には、武田委員、幹事には橋本委員、米田委員が選任された。

（2）その他

①地区会議運営協議会委員の構成の決定について

・北海道地区については、勤務先が偏っているとの指摘があったため、異なる勤務先の者を2名追加することを地区会議に依頼することとなった。今回提出された構成案については、上の依頼をすることを条件に承認された。

・その他の地区については、指摘はなく、案のとおり承認された。

（11月24日（金）の幹事会で決定）

②科学者委員会委員の追加について

・地区会議代表として、近畿地区会議の伊藤会員が科学者委員会の委員となる件が承認された。（11月24日（金）の幹事会で決定）

③地区会議主催学術講演会の開催について

- ・地区会議主催学術講演会における事務局の支援体制について質問があり、追って事務局から委員あてに回答することとなった。
- ・平成30年3月開催予定の九州・沖縄地区会議主催学術講演会（於：長崎大学）について、案のとおり承認された。
（11月24日（金）の幹事会で決定）

④分科会について

三成委員長より24期の分科会の設置案について説明があった後、意見交換が行われた。説明及び各委員から出された意見は以下の通り。

三成委員長からの説明（概要）

- ・23期は委員会・分科会ともあまり活発な活動はできなかったが、今期は活発に活動していきたいと考えている。これは山極会長の強いご意向でもある。
- ・23期の状況も踏まえ、男女共同参画分科会は継続、学術体制分科会は非常に重要な分科会だが機能停止していたため、復活、残りは再編という形で提案する。
- ・分科会には委員会の委員に3名（各部から一人ずつ）入っていただき、委員会とのつながりを重視する観点から、委員会委員の中から委員長を決めてもらいたい。構成は15名程度とし、若手アカデミーの人にも必ず入ってもらうこととしたい。

（男女共同参画分科会）

①第5次男女共同参画基本計画の策定に向けた課題の検討

第4次男女共同参画基本計画に向けても提言を出したが、時期的に少し遅かった。今期は、それを見込んで、科学だけに限定せず、全体を見通すような形で何らかの提言を行いたい。

②大学・研究機関・学協会における女性活躍推進のための方策についての検討

複数の分野で調査され、提言や報告書がまとまっているが、全てについてはないため、できる限り広く・多く調べる必要があると考える。

③ジェンダー関連分科会の活動の総括と課題の整理

ジェンダー関連分科会の情報共有ができていないために活動に重複があり、もったいない状況である。それぞれの分科会がやるということは尊重しつつ、過去の成果と24期の活動を情報共有し、必要に応じて関わるようにすべきである。

④学術におけるダイバーシティ推進に向けた方策の検討

昨今の動きを反映し、学術におけるダイバーシティの推進を新しく課題として追加した。

(学術体制分科会)

①第6期科学技術基本計画に向けた検討

第5期の際は、基礎研究が重要だという提言を学術会議から出している。第6期に一定のインパクトを与えることができるよう、何等かの提言等をまとめたい。それに必要なシンポジウム等を行うことも必要ではないかと考えている。

②大学・研究機関の経営・評価に関する検討

③学術体制・学術法制の国際比較調査・課題の整理

④学際的・文理融合的な研究を推進するための体制づくりの検討

(学協会連携分科会)

①日本学術会議と学協会の連携強化に向けた検討

②学協会相互の連携に対する支援と関連諸問題の検討

③学協会法人化に伴う諸問題の検討

④学会誌・学術雑誌に関わる諸問題の検討

学術誌問題検討分科会の内容を継承し、学協会関連の分科会と統合するものである。

(研究資金・研究資金検討分科会)

①大型研究の計画に関する検討・審査

23期の学術の大型研究計画検討分科会の内容を継承するものである。

②研究資金（科研費・寄付金等）に関する諸問題の検討

③研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出

(学術と教育分科会)

・全く新しく設置を考えている分科会。

①基礎科学力強化に向けた課題の検討

基礎科学力強化は政府が政策としてあげているものである。政府が挙げている政策に、学術会議としてどのように対応していくのか、を検討する。基礎科学力の定義についても考える必要があると考えている。

②「参照基準」のフォローアップのとりまとめ

分野別参照基準については既に多くの分野でまとめられており、フォローアップが出されているものもある。フォローアップについて、学術会議全体としてまとめ、次の課題を設定しなおす作業が大事な課題である。

③大学院のあり方と研究者養成との関係についての検討

現在、研究者養成は危機的な課題になっている。大学院のあり方と研究者養成の関係について、きちんと検討する必要がある。

④教育に関わる重要問題についての分野横断的検討

各委員からの意見

(男女共同参画分科会)

- ・「ダイバーシティ」については男女共同参画の非常に大きな課題であり、設置目的として盛り込むことは重要であるが、異論等が出ないように工夫して記載する必要がある。
- ・男女共同参画については、大学や研究機関・学協会など様々な団体が推進しているため、どのように連携するのかが重要である。その点を強調した方が良い。
- ・男女共同参画分科会が仕掛け人となって、理学工学系の学協会連携と人文社会科学系の学協会連携をつなぎながら活動していくことも可能ではないか。
- ・男女共同参画分科会と他のジェンダー系の分科会の連携は今まで個人的な委員を通じてのレベルであったため、全体を俯瞰できるような、組織としてのつながりが必要である。合同分科会の開催等も一つの手段である。
- ・今後の議論の進捗等に応じて、小分科会の立ち上げ等も検討したい。

(学術体制分科会)

- ・特になし

(学協会連携分科会)

- ・学会誌・学術雑誌に関する点については、世の中の流れが急な話題でもあり、オープンサイエンスとも関わりがあるので、課題別委員会に格上げしてもよいのではないか。
- ・小学会が学術誌・英文誌を出すにあたっては難しい点もある。そういう点についてはこの分科会で扱ってもよいのではないか。
- ・上述の大きい課題については課題別でやってもらえるよう四役で検討できるよう働きかける。

(研究計画・研究資金検討分科会)

- ・審議事項として挙げられているものを全て所掌するには大きすぎる。表層的な議論になりかねない。
- ・研究評価基準に関しては、必ずしも研究資金に限ったことではなく、学術の進め方に関わる部分であるので、総合的に議論する場を設けた方が良い。
- ・現時点での判断が難しいため、今後検討の上、分科会の分離や小分科会の立ち上げ等も検討したい。

(学術と教育分科会)

- ・特になし

- ・審議事項への取り組み方については、分科会の中で議論し、課題の全てに全力をあげて取り組む、というよりは、緊急の課題・政策との兼ね合いで急ぐものなどは先に議論するなど、柔軟に対応することとなった。
- ・出された意見をもとに、委員長一任にて修正の上、11月24日（金）の幹事会に提案することとなった。
- ・分科会委員については、委員推薦手続きを行い、12月の幹事会提案を目指すこととなった。また、各部への推薦依頼の際は、各部の委員から部役員に趣旨の説明や補足を行うこととなった。

⑥運営要綱の改正について

- ・運営要綱について、「組織」の項目に「必要に応じて会員又は連携会員から選ばれる4名以内の委員」を追加し、うち1名を若手アカデミーから推薦してもらうことについて、承認された。
（11月24日（金）の幹事会で決定）
- ・運営要綱改正後、速やかに委員推薦の手続きをとり、12月22日（金）の幹事会で委員の追加を行うこととなった。

⑦次回日程

委員の追加を行った後、1月に実施することとなった。
（日程は追って事務局から調整予定）

以上